

昔壁の中よりもとめいてたりけん

②名をは一名は(群)  
今の世のいまの(静)

文の名をは今の世の人の子は夢はか

③ことゝはことゝ(伏)事は(黒)

りも身のうへのことゝはしらさりけり

④岡一岳(慶)  
葛原一くす葉(残・群・学・慶三)一かつらは  
ら(伏)

な水くきの岡の葛原かへすくもか

きをく跡たしかなれともかひなき物

⑥也一なりけり(群・松・九・万・竹・静・岡)  
捨一すてゝ(慶)

はおやのいさめ也又賢王の人を捨給はぬ

⑦政にも一まつりことに(松)一にも(広甲)  
もれ一れゝ(平)

政にももれ忠臣の世をおもふ情にも

⑧らるゝ一らる(慶)

すてらるゝものはかすならぬ身ひとつ

⑨なは一なから(残・群・鈴三)

なりけりと思ひしりなは又さてしも

⑩此一ナシ(伏)

うれへ一憂ひ(三・黒)  
やるかたなく一たへやるかたなく(鈴)一や  
るかたもなく(宮)

あらて猶此うれへこそやるかたなくかなし

① さらにーさらは(静)ーさらして(平)

けれさらにおもひつゝくれはやまと歌

1  
(258)

のみちはたゝまことすくなくあたる

2

すさひはかりと思ふ人もやあらん日のもと

3

の国にあまのいは戸ひらけし時より四方

4

の神たちのかくらの詞をはしめて世をおさ

5

めものをやはらくるなかたちと成にけると

6

そ此みちのひしりたちはしるしをかれ

7

たるさても又集をえらふ人はためしお

8

ほかれと二たひ勅をうけて世々にき

9

こえあけたる家はたくひ猶ありかたくや有

10

③ すさひーすさみ(群・九・林・古池・内・扶鷹  
乙・広乙・三・天・平)

はかりーたり(鈴)

やーナシ(三)

④ 国にーナシ(松)

いは戸ー聲門の(鈴)  
よりーナシ(残・群・三)

⑤ たちのーたち(松)

かくらのーかくら(学・慶・愚  
詞をーことは(松)

おさめーおめめ(松)

⑥ けるーけり(九・学・慶・愚)

⑧ たるーたり(群・万・竹・古・静・池・内・鷹乙  
岡・天・平)ーたりける(幽・残・松・九・学・  
慶・鈴・扶・鷹甲・広乙・三・愚)

又ーなを(鈴)

おほかれー猶おほかれ(鈴)

⑨ とーとも(幽・松・九・学・慶・鈴・扶・官・鷹甲・  
広乙・黒・平)

二たひーたひく(黒)

きこえー名を(鈴)

⑩ 家ーナシ(残・三)

猶ーナシ(伏)

①跡一夜(鷹甲)

たつさはりて―たつさにて(松)

②おのこゝ共―をのことも(幽・学・慶・鷹甲・

黒)―をのこゝと(伏)―おの子どもの

(鈴)

もんち―もんち(平)

歌―夢(鷹甲)

ふるほく―ふるほこ(幽・鈴・官・鷹甲)―ふ

るほんこ(平)

④事―こそ(鷹乙)―ことと(三)

子―を―子(伏)―なを(松)

はくゝめ―はくゝめ(慶・黒)

けむ其跡にしもたつさはりてみたり

のおのこゝ共もゝちの歌のふるほくとをを

いかなるえにかありけんあつかりもたる

事あれと道をたすけよ子をはくゝめ

後の世をとへとてふかき契をむすひを

かれしほそ川のなかれもゆへなくせきとゝ

められしかは跡とふ法の灯も道をまほ

り家をたすけむおや子の命ももろ

ともにきえをあらそふ年月をへて

あやうく心ほそきながら何としてつ

⑥子―ナシ(黒)  
命―いのり(松)

⑦法の―ナシ(鈴)

まほり―まもり(幽・残・群・松・九・方・学・竹

・古・静・池・内・鈴・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・三

・黒・岡・天・平)

⑩きえ―きみ(古)  
⑪あやうく―あやふく(残・群)

心ほそき―心ほそ(鈴)

ながら―物から(残・三・黒)

何として―なとして(松)―ナシ(鈴)

① けふ一今(鈴)  
まて一まては(残・群・鈴三)

なからふ一なからふる(万・竹古池・内・鈴  
・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・岡天)一なからふ  
侍(静)

② は一を(鈴)

捨れ一すくれ(静)

③ 心の一ナシ(鷹乙)

忍ひしひて(平)

恨一かきり(静)

④ なく一なくて(幽・松・九・学・慶・鈴・官・鷹  
甲)

さても一ナシ(黒)

猶一ナシ(伏・黒)

⑤ うつさは一うつさむは(群・万・竹・岡)一う  
つせは(松・九)

れなくけふまてなからふらんおしからぬ

身ひとつはやすく思捨れとも子をおもふ

心のやみは猶忍ひかたく道をかへりみる恨

はやらん方なくさても猶あつまの龜の

鏡にうつさはくもらぬ影もやあらはるゝとせ

めておもひあまりてよろつのはゝかりをわ

すれ身をよくなきものになしはてゝ

ゆくりもなくいさよふ月にさそはれ

出なんとそ思ひなりぬるさりとして文

屋のやすひてかさそふにもあらすすむ

⑥ わすれ一忘れて(静)一いわれ(黒)

⑦ ようなき一えうなき(残・鈴三)

なしはてゝ一なし果て(学)一思ひなして  
(鈴)

⑧ ゆくりもなく一ゆくりなく(幽・学)一ゆつ  
りもなく(古)

さそはれ一さそはれて(竹・静・宮)

⑨ とそ一と(鈴・黒)

さりとして一さりとして(静)一さるとして(鈴)

⑩ さそふ一かさそふ水(群)

あらすすむ一あらすむ(松)

①にもーナン(池)  
 三冬ーみふゆ(残)  
 ②たつーたち(黒)  
 空ーさためなきそら(残・群・万・竹・三岡)  
 ふりみふらすみーふりふらすみ(九)

③涙とー涙(松)

⑤かなしけれとーものかなしけれと(鈴)

⑥とてもーとて(松・九)  
 へきにもーへきに(伏)

⑦あらてーあらず(黒)  
 たちーせ(黒)  
 わかれせーめかれ(静)ーめかりせ(鈴)  
 ⑧さりつるーきりつる(慶)  
 程ーナン(三)  
 たにーたにも(鈴)  
 つるーたる(鈴)

⑨見まはされーみわたされ(平)  
 もーの(松)

⑩袖のー袖(鷹)

へき国もとむるにもあらず比は三冬

たつはしめの空なれはふりみふらすみ

時雨もたえず嵐にきほふ木葉さへ涙

とともにみたれちりつゝ事にふれて

心ほそくかなしけれと人やりならぬみち

なれはいきうしとてもとゝまるへきにも

あらて何となくいそきたちぬめかれせ

さりつる程たにあれまさりつる庭も

まかきもましてと見まはざれてした

はしけなる人々の袖のしつくもなくさ

①侍従―しうの(松・方・竹・古・内・扶・広乙・岡平)

②うちつく―うちくむし(九)―うちつくし(万・竹・古・静・伏・内・鷹乙・岡)いと―ナシ(林)―と(平)心―ナシ(静)

注 2行目「つ」一字見を消す

③うち見れば―うちをみれば(幽・残・群・学・慶・鈴・宮・鷹甲・三・黒・平)―うちをみれば(松・九)

④枕の―枕さへ(残・群・万・竹・三・岡)―まくら(池)をみるも―をみるにも(残・群・学・三)―も(宮)―をみるに(鷹乙)

⑤かなしくて―かなしとて(平)

⑦われ―我<sup>わが</sup>(残)―わか(鈴・宮・三)―我(幽・群・松・九・万・学・竹・古・静・池・内・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・岡・天・平)はらはむ―かはらん(三)

⑧ける―たる(静・宮・平)歌の―歌(宮)

⑨なとして―して(残)―なととて(群)あたらぬ―あたる(鈴)―あたりぬ(鷹甲)

⑩したゝめて―したゝめ(鈴)かき―ナシ(黒)

めかねたる中にも侍従大夫などのあな

かちにうちつくつしたるさまいと心くるしけ

れはさまくいひこしらへねやのうち見

れは昔の枕のさなからかはらぬをみるもい

ま更かなしくてかたはらにかきつく

とゝめをくふるき枕のちりをたに

われ立さらはたれかはらはむ

代々にかきをかれける歌のさうしどもの

おくかきなとしてあたらぬかきりをえ

りしたゝめて侍従のかたへをくるとてかき

そへたる歌

わかぬ浦にかきとゝめたるもしほ草

これをむかしのかたみとは見よ

あなかしこよこ浪かくなはま千鳥

ひとかたならぬ跡をおもは

是を見て侍従のかへりこといとくあり

つるによもあたにはならしもしほ草

かたみをみよの跡に残さは

まよはましをしへさりせははま千鳥

ひとかたならぬあとをそれとも

③かたみ―記念(三)  
とは―とも(残・群・方・竹・鈴・扶・宮・広乙・  
三・岡)

④かくな―かくる(広甲・方古扶・広乙・岡  
天・平)

⑤かへりこと―返し(松)  
とく―かく(林)―しく(黒)

⑦あたにはならし―あたにもなまし(平)

⑧を―に(伏)  
に残さは―にのこせは(残・群・方・竹・伏・三  
・黒・岡)―にのこさむ(林)―のこさはや  
(宮)

⑨まし―しな(黒)  
をしへ―をしみ(黒)

⑩それ―たれ(平)

①心やすくー心やすう(静)

此かへり事いとおとなしければ心やすく哀

四ウ

②たくてーたく(静)ーたくへて(鈴)

なるにも昔の人にきかせ奉りたくて又

校

③しほれぬーしほたれぬ(残・九三)ーしほれ  
(松)ーしくれぬ(心)ーふしぬ(鈴)

打しほれぬ大夫のかたはらさらずなれき

④ふりーナシ(松)

つるをふり捨られなんなこりあなかちに思ひ

られーられて(平)  
あなかちにーかちに(広甲・林・方・竹・古・池  
・伏・内・麿乙・岡・天)

⑤てーナシ(松)

しりて手習したるを見れば

⑥したはれーしたふれ(林)

はるくーと行きき遠くしたはれて

いかにそなたの空をなかめん

⑧にてーに(鈴)

とかきつけたるものよりことに哀にて

⑨かみー方(広甲)  
つーて(静)

おなしかみにかきそへつ

⑩ななかめそーななかめそ(松)

つくくーと空ななかめそ恋しくは

本

②なくさむるーなく(松)  
あにのーナシ(宮)ーあにのの(岡)

③律師もーおりしも(九)ー律師(静)

④それもーけれとも(松)  
物ーナシ(残・群・広甲・林・竹・古・伏・扶・  
鷹乙・広乙・三・黒・岡・平)  
とーとて(鷹甲)

⑤ともーナシ(伏)  
を見て…かき付ておくに(六オ④)ーナシ  
(広甲・林・古・内・鷹乙)  
又ーナシ(静)  
たりーつ(鈴・黒)

⑥たゝーのみ(残・群・扶・広乙・三)ーなく(万・  
竹・静・岡)

⑦立ーナシ(宮)

⑧とはーナシ(鈴)  
こといみしーいみし(伏)ーいといみし(鈴)  
涙のーナシ(伏)

⑨まきらはすもーまきらはすも(宮)ーまきらは  
す(松)

⑩の君ーのみ(万・竹・岡)  
にてーにて(静)

みちとをく共はやかへりこん

とそなくさむる山より侍従のあにの

律師もいてたち見むとておはしたり

それもいと物心ほそしとおもひたるを此手習

ともを見て又かきそへたり

あたにたゝなみたはかけし旅衣

ころのゆきて立かへるほと

とはこといみしなから涙のこほるゝをあ

らゝかにものいひまきらはすもさまゝ

あはれなるをあさりの君は山ふしにて



- ①ににて(残・群・扶・広乙・三)  
おとなしくおとなしく(松・九)  
御方の御かた(松)  
御恋しき恋しき(残・群・万・字・竹・伏・扶・  
広乙・三・岡)
- ②をくおき(黒)  
侍従大夫しうのたゆふ(松)侍従の大  
夫(宮・平)
- ③の事(伏)こと(宮)  
はくみはくみ(池)はくみ(伏・  
黒)
- ④おほすおほす(群・万・竹・慶・扶・広乙・岡)  
おかす(鷹甲)  
も一ナシ(万・竹・鈴・黒・岡)  
こまかに一ナシ(池・尊・天)まかきに(伏)  
付て一つけて(松・九)
- ⑤こそ(平)  
たのめ(たのむ)字・鈴  
に(の)静)
- ⑦たれはたれと(伏甲)  
御かへり此御返事(鈴)  
こまやかにこまかに(黒)
- ⑧いと一ナシ(黒)  
返事にはかへしには(残・群・松・九・古・鈴  
・扶・鷹甲・広乙・三・思)御返事には(広  
甲・字)御返しには(万・竹・岡)御返事  
は(静)かへり事に(池)
- ⑨とめはとめよ(三・平)

におとなしくおはすれは宮の御方の御恋

しさもかねて申をくついでに侍従大

夫などの事はくみおほすへきよし

もこまにかき付ておくに

君をこそあさ日とたのめふる里に

のこるなてしこ霜にからすな

と聞えたれは御かへりもこまやかに

いとあはれにかきて歌の返事には

おもひをくころとめはふるさとの

霜にもかれしやまとなてしこ

- ① いつ、三つ(扶・広乙)一五人(三)いつ  
く(無)いつく(平)  
のこりなく(一)のこるなく(松・九)
- ② つ、けぬるも(一)付ぬる(鈴)つ、けける  
(黒)  
かつは…心には(一)ナシ(鈴)  
いと(一)ナシ(幽・万・竹・静・慶・伏・宮・鷹甲・  
黒岡)
- ③ おこかましけれと(一)おこかましく侍れと  
(静)
- ④ には(一)にて(松)一に(慶)  
哀に(一)あはれと(幽)
- ⑤ かき(一)ナシ(松)  
たり(一)たる(学)  
よはくても(一)よわくても(残・三)よはく  
て(黒)一にはくても(鈴)
- ⑥ とて(一)と(伏)  
すてつ(一)すつ(黒)
- ⑦ より(一)よりそ(松・九)一よりも(万・学・竹・  
古・静・池・内・扶・鷹乙・広乙・岡天)
- ⑧ つ(一)つる(松・九)
- ⑨ あふ坂(一)相坂山(鈴)  
も(一)に(残・群・静・扶・広乙・三・平)一にも  
(幽・万・学・竹・伏・宮・鷹甲・岡)
- ⑩ さためなき(一)さなきたに(平)  
なれと(一)なれば(万・竹・岡)

⑩は(一)ナシ(松・九)  
行きき(一)行ききの(静・三)

とそあるいつの子どもの歌のこりな

くかきつ、けぬるもかつはいとおこかま

しけれとおやの心には哀におほゆるま

にかきあつめたりさのみ心よはくても

いかとてつれなくふりすてつあはた

くちといふ所より車はかへしつ程なく

あふ坂のせきこゆるほとも

さためなき命はしらぬ旅なれと

又あふさかとのめてそゆく

のちといふ所はこしかた行きき人も

①日はナシ(竹)  
かゝりて一かゝるて(静)一かゝり(鈴・鷹  
乙)  
物かなし一おかなし(古)一はかなし(静)一  
おほつかなし(鈴)  
②そゝくそゝき(黒)

みえず日は暮かゝりていと物かなしとお  
もふにしくれさへうちそゝく

④野路のしの原―後のさゝ原(松)―のちしの  
原(林)

打しくれふるさとおもふ袖ぬれて  
行ききとをき野路のしの原

⑤つく―とゝまる(鈴)  
へし―へき(学)

こよひはかゝみといふ所につくへしときた

⑥つれと―つれとも(静)  
はてゝ―はて(伏)  
行つかす―え行つかす(松・九)  
もり山―もり山(松・九)  
⑦とゝまりぬ―とゝまる(鈴)  
にも―に(鷹甲)  
時雨猶―猶時雨そ(学・静)

めつれと暮はてゝ行つかすもり山といふ  
所にとゝまりぬ爰にも時雨猶したひき  
にけり

⑧猶―我か(松)―我(九)

いとゝ猶袖ぬらせとややとりけん

⑩もる山―もり山(鈴・池・慶・内・宮・鷹乙・黒)  
しも―して(万・竹・鈴・宮・黒・岡・平)

まなくしくれのもる山にしも

- ①は―ナシ(伏・鈴)  
なりけり―成けりと(広甲)―也(幽鷹甲)  
くるしく―心くるしく(鈴)
- ②うち―ナシ(残・群・方・竹・三・岡)  
光―ひかりは(殊・三)  
かすかに―ナシ(慶)
- ③明ほのに―明更(広甲)―に(黒)  
もり山―もる山(松・九)
- ④程―程に(幽・学・慶・鈴・扶・官・鷹甲・広乙・  
黒平)
- さき―さきに(平)
- 行―ナシ(官)
- 旅人の―人の(松・九・尊)―旅人の人の(伏  
たひの(官)
- あし音―あしのをと(林・松・九方・竹古・  
池・内・扶・鷹乙・広乙・岡・天)
- ⑤にて―に(鈴)
- ふかし―ふし(内)
- ⑥旅人も―たひ人は(幽・残・群・学・慶・鈴・扶・  
鷹甲・広乙・三・愚)
- 先―朝(幽・残・群・方・学・竹・静・慶・扶・官・  
鷹甲・広乙・三・岡)
- ⑦やすの川きり―やす川のきり(松・九・鷹乙)
- ⑧十七日の―十六日の(松)―十六日(九)
- ⑨月出て―ナシ(鈴)  
峯に―はに(鈴)  
たる―ナシ(平)  
松の―ナシ(三)
- ⑩みえ―見せ
- おもしろし―おもしろ(松)
- に―は(残・群・三)―も(松・九・静)―を(学)

けふは十六日の夜なりけりいとくるしくて

うちふしぬいまた月の光かすかに残りた

る明ほのにもり山をいて、ゆくやす川わた

る程さきたちて行旅人のこまのあし音

はかりさやかにて霧いとふかし

旅人もみなもるともに先たちて

駒うちわたすやすの川きり

十七日の夜はをの、宿といふ所にと、まる

月出て山の峯に立つ、きたる松の木の間

けちめみえていとおもしろしこゝに夜ふか

①井一ひ(古池黒)

き霧のまよひにたとりいてつさめか井と

②ならば一なから(三)

おもふ一見る(松・九)

いふ水夏ならば打過ましやとおもふに

③猶一かち人なを(慶)

立一うち(銚)

めり一なり(池・慶)なる(静)一ナシ(宮)

かち人は猶立よりてくむめり

一あり(鷹乙)

むすふ手にゝこる心をすゝきなは

⑤や一は(字)一を(静・伏)

井一ひ(古・黒)一い(池)

うき世の夢やさめか井の水

⑥とそおほゆる一ナシ(三)

十八日一ナシ(残・広甲)

国一因に(万・竹・古岡)

とそおほゆる十八日みのゝ国せきの藤河

⑦まつ一ナシ(黒)  
つゝけゝる一つゝけらる(九)

わたる程にまつおもひつゝけゝる

⑧て一は(松・九・伏)

わかことも君につかへんためならて

わたらましやはせきのふち河

不破のせき屋の板ひさしは今もかはらざりけり

① 関屋は―関やの(伏・平)

ひまおほきふはの関屋はこの程の

八ウ

③ 雨―雨の(宍)  
しくれ―銀竹(竹)

しくれも月もいかにもるらん

関よりかきくらしつる雨しくれに過て

④ も―ナシ(心)  
心―山(池)

降くらはせは道もいとあしくて心より外に

⑤ かさぬひ―かさぬいひ(古)  
むまや―ひまや(伏)

かさぬひのむまやといふ所にとゝまる

所に―所にくればはてねと(残・群・三)

⑥ 旅人は―旅人の(愚)

旅人はみのうちはらふゆふくれの

はらふ―はらひ(幽・松・九・鷹甲)  
ゆふくれの―ゆくくれの(幽・鷹甲)―ゆう  
くれに(鈴)

雨にやとかるかさぬひのさと

⑧ 十九日―十九日に(字)  
⑨ つる―ける(残・三)

十九日又こゝをいてゝゆく夜もすから降

とかや―とかやと(松・九―たかやと(愚))  
程―ほとに(幽)―程の(扶・広乙)―ナシ  
(竹)

つる雨にひら野とかやいふ程みちいとゝ

いとゝ―いと(幽・残・群・静・池・鈴・鷹甲・三  
・愚)

⑩ わろくて―わろくて(池)―わろく(平)  
人―人の(鈴)

わろくて人かよふへくもあらねは水田の

へくも―へきに(愚)  
ね―ぬ(古)

①おも<sup>ち</sup>一面(残)―面(幽・九・広甲・学・静・池・慶・鈴・鷹甲)

そーナシ(黒)

わたりーナシ(静)

②道ーところ(鈴)

社ー森(伏)

④そきこゆるといへはーゆうめる(鈴)―きこゆる(黒)

⑥まほれーまもれ(幽・残・群・松・九・広甲・万・学・竹・古・静・池・慶・内・鈴・扶・宮・鷹甲・鷹乙・広乙・三・函)

⑦とかやーと(学・伏・鈴)

川ー月(平)

⑧かけとゝめーかけとめ(鈴)―かきとゝめ(黒)

⑨あやうけれとーあやふけれと(残・群・三)―あやうけれは(行)―あやうけれとも(鈴)―あやうくあれと(黒)

⑩堤ー塘(字)

かたはーかた(広甲)

おもをそきなからわたりゆくあくるまゝに

雨はふらすなりぬひるつかた過行道に

目にたつ社あり人にとへはむすふの神と

そきこゆるといへは

まほれたゝ契むすふの神ならば

とけぬうらみにわれまよはさて

すのまたとかやいふ川には舟をならへて

まさきのつなにやあらんかけとゝめた

るうき橋ありいとあやうけれとわたる

此川堤のかたはいとふかくてかたゝは浅けれは

① つかきふるき(岡)

かたふちのつかき心はありなから

1

② にーの(松・九・静)

人目つゝみにさせかるらん

2

かりの世のゆきゝとみるもはかなしや

3

④ 身をー身の(幽・松・九・静・慶・鷹甲)  
ふねをー船の(竹  
にーと(静)

身をうきふねをうき橋にして

4

⑤ そも(九)  
又ーナシ(宮)

とそおもひつゝける又一宮といふやし

5

ろをすくとて

6

⑦ みやー宮や(鷹甲)  
ふたつーみたつ(広甲)

一のみや名さへなつかしふたつなく

7

みつなき法をまもるなるへし

8

⑧ の国ーナシ(宮)

廿日おはりの国おもとゝいふむまやをゆく

9

おもとゝいふーおりとこいふ(残・群・三)  
おりとの(松・九)  
ゆくー出て行(松・九・静)ーゆき(宮)  
⑩ へー人(松)  
てーナシ(伏・鈴)

よきぬ道なれはあつたの宮へまいりて

10

①硯一佩を(学) 硯とりいてゝかきつけて奉る歌五

いてゝ、いいて(伏) かきつけてゝかきつけ(松・九・鈴・黒)一書

(広甲)一かきつゝけて(宮) 奉る一奉りける(学・静・宮)

五一ナシ(残・群・学・宮・三・平)一いてゝ (松)一五首(広甲)

②かたひくしほも神のまに

も一を(伏)一の(鈴) 神一袖(万・竹・古・簡)

かたひくしほも神のまに

④浦風一浦かを(松)一浦浪(学・伏)

なるみかたわかの浦風へたてすは

⑥もーや(学)

おなしこゝろに神もうくらむ

⑥きつる一のる(幽・鷹甲)

みつしほのさしてそきつるなるみかた

⑦や一の(幽・鷹甲) みるめ一うるめ(伏)

神やあはれとみるめたつねて

雨風も神のこゝろにまかすらん

⑧のーに(黒)

⑧しほひ一鳴海の渦を過るにしほひ(残・群・三)一ちきりあれちむかしもゆめにみしめなは心にかけてめぐりあひぬるしほひ(松・九・静)を一ナシ(黒)

わか行さきのさはりあらずな

しほひの程なればさはりなくひかたを

①いとーナシ(松・丸)  
さきたちてー先立(鈴)

②かほーナシ(竹)

④跡とめむーあととめし(松・丸)ーあとゝは  
ん(静)  
をーか(鈴)

⑤のわたりーナシ(黒)

⑥かとーナシ(慶)  
あしとーあしとの(鈴)

⑦ありーをり(黒)

⑧あかさりしーあかゝりし(宮)

⑨すむーこし(松・丸)  
かとーかも(群・竹・慶・伏・宮)ーとは(静)

⑩にーナシ(松・丸)ーにも(静)  
山も野もー野も山も(鈴)

行おりしも浜千鳥いとおほくさきた

ちてゆくもしるへかほなる心ちして

はま千鳥なきてそさそふ世中に

跡とめむとはおもはさりしを

すみた河のわたりにこそありときゝし

かとみやこ鳥といふ鳥のはしとあしと

あかきはこの浦にもありけり

ことゝはむはしとあしとはあかさりし

我すむかたのみやこ鳥かと

二むら山をこえて行に山も野もいとゝ

①日もーナシ(平)

をくて日もくれはてぬ

はるくくと二むら山を行すきて

なをすゑたとる野へのゆふやみ

八橋にとまらんといふくらきにはしも

みえすなりぬ

④とまらんととまらむ人々(松・九)  
ーとまらむと(学)  
くらきーくらさ(幽・群・松・九・広甲・林・方・  
学・竹・古・静・池・慶・内・鈴・扶・官・鷹・甲・  
鷹乙・広乙・黒・岡・天・平)

さゝかにのくもてあやうき八はしを

⑤なりぬーナシ(静)

ゆふくれかけてわたりぬる哉

⑥あやうきー危き(残・三)ーあやしき(鈴)  
をーも(平)

廿一日八はしをいてくゆくにいとよくはれた

⑦ぬる哉ーかねつる(松・九)

り山もと遠きはら野を分ゆくひるつ

⑧廿一日ー廿日(松)ー廿二日(広甲)  
にー日(松・九)  
たりーたる(平)

かたになりて紅葉いとおほき山にむかひ

⑨山もとー山(残・広甲・三)ー山も(竹)  
はら野をー野原を(学)ーはら野(伏)

①つれなき―つれなきくれなる(松・九)―つ

きなき(静)―つれな(宮)

ところ―ところ―所々に(池)

くち葉に―もみち葉に(静)

―くち葉(宮)―

松はに(黒)

②けり―ける(松・九)―なり(岡)

とも―も(鈴)―ともし(鷹乙)―とも(平)

③あをち―あふち(竹)―青葉(鷹甲)

を―と(松)

す―して(松・九)

④みやちの山―みやち山(残・群・万・竹・黒)

岡―みやちといふ山也(字・慶)

といふ―とそいふ(松・九)

⑤けり―せり(広甲)

の―に(広甲)

⑥かへるまで―かはるまで(幽・群・扶・鷹甲)

・広乙)―かへるとて(静)

⑦まで―にて(鈴)

に―ナン(九)

ね―ぬ(群)

⑩竹の―竹(松・九)

かや屋の―かやゝたゝ(松・九)―や屋の

(林)

見ゆる―見ゆるは(黒)

て行風につれなきところくち葉に

そめかへてけりときは木ともたちま

しりてあをちの錦をみる心ちす人に

とへはみやちの山といふ

しくれけりそむる干しほのはては又

もみちのにしきいろかへるまで

此山までは昔見し心ちするに比さへかはらねは

まちけりなむかしもこえし宮ち山

おなし時雨のめぐりあふ世を

山のすそ野に竹のある所にかや屋の一見

①かくてーかく(黒)  
すむらんーすみぬらん(鈴)

②みゆーナシ(伏)

③しめーとめ(静)

④あたりーあたに(松)

⑤ものゝーナシ(黒)

あやめもわかぬほとにーあやめわかるゝほ  
と(松・九)ーあやめもわけぬほとに(竹)  
⑥わたうとゝかやーわたとゝかや(学・慶)ー  
わたうとかや(万・竹・静・鈴・黒・岡)  
とゝまりぬーとゝまる(鈴)

⑦廿二日のー廿二日(鈴)  
暁ー曉は(学・静・慶)ーナシ(鈴)  
ふかきーふかく(残・学・静・池・慶三・黒)  
影にーかはかり(静)

⑧ゆくーナシ(慶)  
もーナシ(慶)  
物かなしーつゝかなし(群)ー物いとかなし  
(松・九)

⑨をーは(松・九)

⑩うき身ー浮世(松・学)  
かけー月(鈴)

ゆるいかにしてなにのたよりにかくてすむ

らんとみゆ

ぬしやたれ山のすそ野に宿しめて

あたりさひしき竹のひとむら

日は入はてゝ猶ものゝあやめもわかぬほとに

わたうとゝかやいふ所にとゝまりぬ

廿二日の暁夜ふかきあり明の影にいてゝ

ゆくいつよりも物かなし

すみわひて月のみやこをいてしかと

うき身はなれぬ有明のかけ

1

2

3

4

5

6

7  
(272)

8

9

10

①なるーする(三)  
さへーナシ(伏)

②たりーたる(松・鈴)

③のーは(黒)  
出つー出ぬ(広甲・平)

④月ーかけ(竹)

⑤のーナシ(群)  
こえーこし(平)  
つーゆく(宮)

⑥浦ーナシ(広甲)  
浪ーナシ(伏)  
いとーナシ(林)

⑦たかしーあらし(松・丸)

⑧ためーかた(鈴)  
浪ー風(松・丸・静)ーなれ(字)ー首(鈴)

⑨はーた(黒)

とそ思ひつゝくるともなる人有明の月さへ

かさきたりといふをきゝて

旅人のおなしみちにや出つらむ

かさうちきたる有明の月

たかしの山もこえつ海見ゆる程いとおもし

ろし浦風あれて松のひゝきすこく浪い

とたかし

我ためや浪もたかしのはまならん

そでのみなとの浪はやすまで

いとしろき洲さきにくろき鳥のむれ

①は―ナシ(平)  
なりけり―なりけん(広甲)―ナシ(静)―な  
り(平)

②つ―洲(鈴)

③の―も(残・群・松・九・万・字・竹・古・静・池・慶内・鈴・鷹乙・三・岡天)

⑤鳥―鳥の(鈴)

おほく―ほほく(松)  
かひ―ちかひ(幽・残・群・松・九・広甲・林・万・字・竹・古・静・池・慶内・鈴・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・三・黒・岡・天・平)  
へも―にも(黒)  
いる―いり(幽・鷹甲)―入(静・慶・鈴・鷹乙)―ある(黒)

⑥る―い(松・池)

⑦ある―いる(松)

⑧の―に(平)  
かけこす―影こす(群)―かすこそ(松・九)―かたこす(黒)

⑨ひきま―ひくま(残・群・方・竹・扶・広乙・岡)

―引間(幽・松・鈴・鷹甲)―ひき(林)―引馬(三)

⑩所―の―所(鈴・平)

大方―館(広甲・慶)―たち(字)  
名は―なを(残・扶・広乙・三)

るたるは鵜といふ鳥なりけり

白はまにすみの色なる嶋つ鳥

ふてのをよはゝ絵にかきてまし

はまなのはしより見わたせはかもめといふ

鳥いとおほく飛かひて水のそこへもいる

岩のうへにもゐたり

かもめゐる洲崎の岩もよそならず

波のかけこす袖に見なれて

こよひはひきまのしゆくといふ所にとゝまる

此所の大方の名ははま松とそいひししたし

①なり―なりと(内・鷹乙)

といひしはかりの人々なともすむ所なりす

②おもかけも―面影(鷹乙)  
さまく―さまく(官)

みこし人のおもかけもさまく―おもひ出ら

③程も返々哀なり―ナシ(広甲)―程返々あは  
れなり(平)

れて又めぐりあひて見つる命の程も返々

哀なり

⑤を―も(字・慶)  
たつねきて―たのみつゝ(鈴)

はま松のかはらぬかけをたつねきて

⑥とふ―思ふ(静・伏・鈴・平)

みし人なみにむかしをそとふ

⑦子―ナシ(鈴・黒)  
むまこ―まこ(松・九)―むまれ(伏)  
いて―出し(静)

其世に見し人の子むまこなとよひいてゝ

⑧あひしらふ―あひしらぬ(九)  
天りう―てんちう(九)

あひしらふ廿三日天りうのわたりといふ舟

⑨いてられて―いてゝ(慶)  
いと―ナシ(松・九)  
心ほそし―心ほそく(平)

にのるに西行か昔もおもひいてられていと心

ほそしくみあはせたる舟たゝ一にてお

①人の一人々(平・黒)  
帰る一かへるほと(松)  
も一ナシ(餘)

②に一を(松・九・餘)

みよ一見る(餘)

③はやせ一はやせ(古)

を舟一瀬々に(松・九)一ふねの(平)

やすめす一やすめて(平)

④とをつあふみ一とをたうみ(松)一とをつあ

ふみの(幽・宮・鷹甲)

さと一こふ(残・群・三)一こう(松・九)

⑤と一まる一とまる(伏)

物一ナシ(宮)

⑥井一え(松・九)

⑦旅ねそ一旅寝(残・三)

そら一空に(竹)

⑧ひる一昼つかた(餘)

こゆ一こゆる(群)一ナシ(伏)

とのまくとかや一このまゝとかや(残・群

・扶・広乙三)一とのまゝと松(九・鷹乙)

一とのまくと(広甲)一にとのまくとかや

(静)

⑨ほとも道いと一ほともみちいとさかりに

(残・群・三)一ほともみちいと(松・九・鷹)

一程もみちいと(幽・鷹甲)一ほともみち

(竹)一をとも道いと(伏)一程紅葉いと

(静)

おもしろし一おもしろく(静)

ほとくの人のゆきゝにさし帰るひまもなし

水のあはのうき世にわたる程をみよ

はやせのを舟さほもやすめす

こよひはとをつあふみ見つけのさとゝいふ

所にとゝまる里あれて物おそろしかたは

らに水の井あり

たれかきてみつけの里ときくからに

いとゝ旅ねそそらおそろしき

廿四日ひるに成てさやの中山こゆとのまくと

かやいふやしろのほとも道いとおもしろし

①をよはぬ―おもはぬ(竹)―をとほぬ(伏)  
なめり―るめり(鈴)

②近―ナシ(平)

こと山―ことに(鬼)

心ほそく―心ほそし(広甲)

③麓の里…と…まる―ナシ(伏)

里に―里(幽・松・九・鷹甲)

きく川―菊路川(鈴)  
と…まる―とまる(静・宮)―と…まりぬ  
(三)

⑤さよ―さや(残・群・広甲・学・鈴・三)

⑥あかつき―あかつきに(群)

おきて―出て(鈴)―おき出て(鬼)  
も―ナシ(伏)

⑦さや―さよ(伏・平)  
は―も(鈴)

山陰にて嵐もをよはぬなめりふかく入まゝ

に遠近のみねつゝきこと山に似す心ほそく

哀也麓の里にきく川といふ所にと…まる

こえ暮すふもとのさとのゆふやみに

松風をくるさよの中山

あかつきおきてみれば月も出にけり

雲かゝるさやの中山こえぬとは

みやこにつけよ有明の月

河音いとすこし

⑩かけし―かりし(林)

わたらむとおもひやかけしあつまぢた

ありとはかりはきく川の水

廿五日きく川をいて、けふは大井川といふ

河をわたる水いとあせてきくにはた

か

かひてわつらひなしかはらいくりとかや

は

いとはるか也水のいてたらんおもかけをし

はからる

おもひ出るみやこのことはおほ井川

いくせの石のかすもをよはし

うつの山こゆる程にしもあさりの見しり

たる山ふし行あひたり夢にも人をなと

②はーナシ(鈴)

③いとーナシ(蘆)

はーナシ(鈴)

たかひーかはり(伏・宮)

注 3行目「かはり」三字見せ消す

④かはらーかはらは(静)ーかは(松)

⑤いとーナシ(竹・平)

か也ーかに(池)ーナシ(黒)

いてたらんーはからるーナシ(広甲)

いてたらんー出らん(黒)

⑥らるーらる(静)

⑧にしもーナシ(平)  
見しりー見し(竹)

⑩山ふしー山ふしに(幽・藤甲)  
たりーたる(内)

①昔をわさと一わさと昔を(鈴)  
 まねひたらん一まなひたらん(静・黒)一真  
似ひたる(鈴)  
 ②哀にも一あはれも(伏)  
 やさしく一やましく(広甲)  
 おほゆ一おほゆる(字・黒)

③あまたは一あまた(広甲・鈴・平)

④やむことなき一やすむことなき(平)  
 所一と心(万・竹・幽)  
 ひとつにそ一ひとつそ(広甲)一ひとりにそ  
(内・平)一ひとつにて(黒)

⑤きこゆる一聞ゆ(幽・広甲・静・鈴・宮)

⑥なし一なき(広甲)

⑦夢にも一ゆめちも(松・九・静)  
 都一むかし(残・群・万・古・扶・広乙・三・岡)  
 こふ一たふ(古)

⑧ひまも一ほとも(広甲)一ひまは(慶)

⑨に一そ(平)

昔をわさとまねひたらん心ちしていと

めつらかにおかしくも哀にもやさしくもお

ほゆいそく道なりといへは文もあまたはえ

かゝすたゝやむことなき所ひとつにそ

をとつれきこゆる

我こゝろうつゝ共なしうつつのやま

夢にもとをき都こふとて

つたかえてしくれぬひまもうつつの山

なみたに袖の色そこかるゝ

こよひはてこしといふ所にとゝまるなに

- ①とかやの—とかや(広甲・静・鈴・三・黒・平) —かやの(伏) のほり—のほりたまふ(残・三・黒)のほり (松・九・万・竹・古・内・鷹乙・岡) —のほり (静)
- ②宿かりかねたりつれ—やとりかねたりつれ (松九) —やとかりかねつれ(池・鈴・宮・尊・三・天・平)
- ③も—ナン(静) わらしな—はらしな(幽・松・静・鈴・鷹甲・黒)
- ④の—ナン(平) 浜—しま(静) いつ—出つ(竹) —いてつ(鈴・黒) 出し—ナン(林)
- ⑤小枕—小枕(残・三) —こ枕(宮) —をまくら (群・松・九・万・学・竹・静・伏・内・扶・鷹乙・広乙・岡・天)
- ⑦くるしければ—心くるしければ(鈴) 打—ナン(三)
- ⑧の—なる(鈴) なから—たるに(池) つく—つけつ(幽・残・群・松九・万・学・竹) 古・静・鷹・内・鈴・扶・宮・鷹甲・鷹乙・広乙・三・黒・岡・天・平) —つけゝる(池)
- ⑨の—に(幽・残・群・林・松・九・広甲・万・学・竹) 古・静・池・鷹・内・鈴・扶・宮・鷹甲・鷹乙・広乙・三・黒・岡・天)
- ⑩めばかりを—夢ばかり(松・九) つと—つゝ(平)

かしの僧正とかやののほるとていと人しけし

宿かりかねたりつれとさすかに人のなき

やとも有けり廿六日わらしな川とかやわ

たりておきつの浜に打いつなくく出し

跡の月影なとまつ思ひいてらるひるたち入

たる所にあやしきつけの小枕ありいと

くるしければ打ふしたるに硯もみゆれ

は枕のしやうしに臥なからかきつく

なをさりのみるめばかりをかりまくら

むすひおきつと人にかたるな

①程―ほとと(幽・学・池・慶・鈴・宮・鷹甲・黒  
―ナシ)(伏)  
すく―過る(学・静)  
②する―たる(三)  
やうに―やうにやうに(鷹乙)  
みゆる―みゆ(鈴)  
いと―も(松・九)

⑤程―ほとも(松・鷹乙)  
わたり―あたり(慶)  
海―海の(林・広甲・伏)―浦(慶・鈴・鷹甲・  
黒)―浦の(平)  
注 5行目「の」見セ消テ  
⑥と、まりぬ―と、まる(鈴)  
くゆり―見ゆり(黒)

⑦かゝる―かゝり(九)  
煙―けふりの(松・九)  
むつかしき―むつき(内)  
⑧宿―やかと(残)  
⑨らる―らる(平)  
いと―ナシ(鈴)  
⑩浪た、枕に―波た、枕の上に(幽・残・群・万  
・竹・古・内・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・三)―な  
みたたまくらうへにて(静)―涙手枕に  
(伏)―波まくらに(平)  
立―ナシ(鈴)

暮かゝる程清見か関をすく岩こす浪

の白きゝぬを打きするやうにみゆるいとおかし

清見かた年ふる岩にことゝはん

浪のぬれきぬいくかさねきつ

程なく暮て其わたりの海のちかき里

にとゝまりぬ浦人のしわざにや隣よりく

ゆりかゝる煙いとむつかしきにほひなれば

よるの宿なまくさしといひける人の詞

もおもひいてらる夜もすから風いとあれて

浪たゝ枕に立さはく

①清見かた―なるみかた(宮)

ならはすよよそに聞こし清見かた

②ねさめは―ねさめに(松)―まくら(伏)  
注 2行目「まくら」見セ消テ

あら磯なみのかゝるねさめは  
まくら

③も―ナン(松・九・扶)  
昔―むかし(の・平)  
父の―父(宮)

ふしの山をみれば煙もたゝす昔父の朝臣

にさそはれていかななるみの浦なればなと

④よみし―詠し、(平・中)  
まては―まて(慶・伏)

よみし比とをつあふみの国まては見しかは

富士のけふりのすゑもあさ夕たしかに

⑦みえし―見し(黒)

みえし物をいつの年よりか絶しと

⑧こたふる―こたふ(黒)  
たに―たにも(尊・天)

とへはさたかにこたふる人たになし

⑨はて、か―はて、(静)  
ねの―山(鷹乙)

たか方になひきはて、かふしのねの

⑩すゑの―すゑ路(鷹乙)  
見えす―たえし(鈴)

けふりのすゑの見えすなるらん

① までーとて(松・九)

② かーは(伏)

ねをーねの(幽・松・九・慶・伏・内・鈴・宮・鷹  
甲・鷹乙・愚ー山(広甲)ーねと(岡)

④ はてしーはつる(鷹乙)  
をーも(内・鷹乙)

⑤ もーの(黒)  
たゝすーたへす(松)ーたえず(万・静・愚)

⑥ なみーなよ(黒)  
いふ所にー□□の(松・九)□□ノ部分読ミ難  
半漢字

やとりてーやとりてか(広甲)ーやとる(鈴)  
⑦ 音左右にー音さらに(幽・残・群・万・学・竹・  
静・慶・扶・鷹甲・広乙・三・黒・岡)ー左右に  
(伏)ーなみの音左右に聞えて(鏡)ー音に  
左右に(平)

廿七日:渡りぬるーナシ(池)  
⑧ て後ーたる(平)

ふし川ーふし川を(幽・静・慶・鷹甲)

⑨ かそふれーかさふれ(平)  
十五瀬をそー八十五瀬をそ(学)ー十五瀬を  
(竹・慶・鷹甲)  
渡りぬるーわたりぬ(慶)ーわたりける(宮・  
平)ーわたる(平)

⑩ ふし河のー田子の浦の(平)

古今の序の詞までおもひ出られて

いつの世のふもとのちりかふしのねを

雪さへたかき山となしけん

朽はてしなからの橋をつくらはや

ふしのけふりもたゝすなりなは

こよひはなみのうへといふ所にやとり

てあれたる音左右にぬもあはず廿七日

明はなれて後ふし川わたる朝河いと

さむしかそふれは十五瀬をそ渡りぬる

さえ佐ぬ雪よりおろすふし河の

①こほるーとふる(池)

川風こほる冬のころもて

②いとーナシ(宮)

うらゝかにてーうらゝかさて(松)ーうらゝか

けふは日いうらゝかにてたこの浦に打い

(伏)ーうらゝかにて(宮)  
たこのーたゝ此(伏)  
いつーいてつ(静)ーいつる(鈴・宮)

つあまとものいさりするをみても

③のーナシ(黒)  
みてもーみて(竹・平)

こゝろからおりたつたこのあま衣

④とーも(松・九)  
かたるーかこつ(松・九・静)

ほさぬうらみと人にかたるな

⑤こうー國府(残・三)ー府(鈴)ーこふ(群・慶)  
扶・広(乙)ーかう(伏・鬼)

とそいはまほしき伊豆のこうといふ所

⑦とゝまるーとまる(松)  
程ーほとに(静・宮)  
明ーナシ(鷹乙)

にとゝまるいまた夕日残る程三嶋の明

⑧よみてーよみ(松)

神へ参るとてよみてたてまつる

⑨宮はしらー宮居して(黒)

あはれとやみしまの神の宮はしら

⑩めくりー尋ね(鈴)  
けりーける(内・天)ーけん(鈴・黒)

たゝこゝにしもめぐりきにけり

1

2

3

4

5

6  
(280)

7

8

9

10

①跡も―あとを(松)

をのつからつたへし跡もあるものを

神はしるらんしきしまのみち

③こえーこし(鈴)

かゝるーくらす(平)  
をーに(松九)ーは(伏)

たつねきてわかこえかゝるはこねちを

④しるへーしる人(鷹甲)  
とそおもふーをそとふ(松・九)

山のかひあるしるへとそおもふ

⑤こうーこふ(残・群・扶・広乙)ー国府(幽・慶・鷹甲・三)ーかう(広甲)ーかうといふ所(里)

廿八日いつのこうをいてゝはこねちに

⑥いまた夜ー夜いまた(広甲)

かゝるいまた夜ふかゝりければ

玉くしけはこねの山をいそげとも

なをあげかたきよこ雲の空

⑨あしから山ーあしからの山(九学・静・慶・宮)

あしから山はみちとをしとてはこねち

⑩かゝるなりーかゝり(黒)  
けりーナシ(竹)

にかゝるなりけり

①そはたてゝそはてゝ(松)

ゆかしきよそなたの雲をそはたてゝ

②ぬるゝつる(松・九)

よそになしぬるあしからの山

③とゝまりゝとまり(黒)

いとさかしき山をくたる人のあしもとゝまり

④とゝとそ(残・群・松・九・扶・広乙・三)

かたしゆさかといふなるからうしてこえ

⑤たれとゝたれはまた(残・群・扶・広乙・三)

はてたれとふもとにはや川といふ河あ

たれは(松・九・学・慶・鈴・宮・黒・平)ゝぬ  
れは(幽・鷹甲)  
にゝは(松)  
いふゝナシ(伏)

⑥はやしゝいとはやし(松・九)  
なかるゝゝなかる(扶)

りまことにはやし木のおほくなかるゝ

⑦のゝか(鷹甲)  
浦へゝ浦人の(鈴)

をいかにととへはあまのもしほ木を浦へ

⑧也ゝナシ(学・鈴・宮・黒)

いたさんとなかす也といふ

⑨ゆ坂ゝゆきか(古)  
こえゝこし(万・竹・古・扶・簡)

あつまちのゆ坂をこえて見わたせは

しほ木なかるゝはや川の水